

① 公立学校の学校公開週間におけるセキュリティについて

去る6月24日から7月1日までの1週間、長与町内では「長与の子の心を見つめる教育週間」と銘打たれ、町内の公立の小学校5校と中学校3校の全校で、保護者や教育関係者に限らないすべての人を対象とした学校公開が行われましたが、この期間中に洗切小学校、長与南小学校、長与小学校の3校を訪問したところ、いずれの学校でも特に身分証の確認などもなく正面入口から校舎内に入ることができ、受付済みを示す「来校者」のIDカードと記名帳が置いてある受付テーブルも無人であるため、誰にも会うことなくIDカードを取って首から下げ、そのまま自由に校舎内を歩いて回れる状態でした。

どの学校も、校内を見て回る際に教職員が特に付き添うこともなく、ちょうど掃除の時間だった学校に関しても、やはり教職員の監視などもない状態で、廊下や教室を掃除している大勢の子供たちと自由に接触できる状況でした。

この教育週間は県の主導で平成16年から行われている「長崎っ子の心を見つめる教育週間」の一環で、そもそもは平成15年に起きた12歳の少年による男児殺害事件をきっかけに、「命を大切に作る心や思いやりの心の育成」を目的の一つとして始まったと聞いております。子供が加害者になることを防止するために、道徳教育・授業を中心に、命あるものを尊重し大切に作る心情を育むという内容については一定の理解ができますが、子供が被害者となることも当然に防ぐべきであり、その点においてはこの防犯体制の甘さには非常に問題があると感じました。

この件についてはすでに、当該の教育週間中に一度窓口にて長与町教育委員会に問合せをし、その際には「教職員は不審者対策の講習を受けている。地域住民や保護者ではないと思われる人には声掛けをして牽制し、表面上は平静を装いながらも相手が不審な動きをしないか目を光らせている」との回答をいただいておりますが、そもそも教職員と一度も出会うことなく子供たちに接触できる状況では、そのような対策は対策とも言えないと思います。この件につきまして、以下質問いたします。

- (1) 教育週間という期間を設定し道徳教育を特に強化すること自体は「思いやりの心の育成」という当初理念にも沿っておりいいことだと思いますが、それを「誰にでも公開する」ということはその教育効果とは何ら関連がないように思いますが、防犯対策を手厚く出来ない状態であるにもかかわらず「公開」でやらなければならない理由はあるのでしょうか。
- (2) 教職員の多忙かつ長時間の労働が全国的にも問題とされている中で、その上に専門分野でもない不審者対応などの習得及び児童の安全保障という心的負担と責任まで更に負わせることは非常に不合理で非効率的、不完全だと思いますが、児童の生命の安全のために今後はこの学校公開週間の期間中に防犯対策を強化・変更するなどの予定はないのでしょうか。

② 住環境改善のための野良猫対策の本町の方針について

現在、殺処分をすることなく野良猫を減らし、かつ糞害や無秩序な餌やりなどを防ぐ方策として、野良の成猫に不妊・去勢手術を施し、それを地域住民がルールに基づいて餌やりとトイレの世話を行って地域ぐるみで寿命まで面倒を見ながら徐々に減らしていくという「地域猫活動」が全国的に広まっています。

動物殺処分数で全国最多という不名誉な記録を毎年出し続けている長崎県でも県をあげてこの地域猫活動を推進しており、県では毎年200頭分の野良猫の不妊・去勢手術費用を全額負担し、県下の市町村にも協力を求めています。長与町も独自に手術費用の一部補助として年間20頭分160,000円の予算を計上していますが、地域猫活動というのはむしろ手術後の方が、エサ代やトイレ砂などの費用負担および5年から10年もの長期にわたる世話という労力の負担が大きく、そもそもこの20頭の捕獲や手術への持込などもすべて自主的な住民の善意に頼っている状況です。

また、地域猫活動は、少人数の住民が自主的に行うだけでは、他の住民が餌だけ与えて猫の行動範囲を分散させたり、地域猫活動をしている方たちが他の住民からただ野良猫に餌をやっているだけと誤解されトラブルになったりなどの弊害を生みかねず、最低でも自治会単位でその活動が周知・認識・理解されなければ効果が期待できません。

野良猫の害は糞害やゴミの散乱、鳴き声の騒音、餌をやる人と他の住民とのトラブル、エサの放置によって他の野生動物等が寄りつく、ノミ・ダニの人への感染など様々にあり、本来的には野良猫の削減は、安心・安全な住環境の維持・改善のために行政がもっと主体的・積極的に行うべき業務ではないかと思えます。

住民環境課では、野良猫の問題で相談に来る方に対して、長崎県が作成している「地域猫活動ノススメ」というプリントを渡しておきながら、それ以上の協力はほとんどなくあとは住民に丸投げという状態で、本気で地域猫活動を推奨しているとは思えません。県の方針に沿う意味でも、もう少し積極的かつ具体的な支援を行うべきだと思いますが、いかがでしょうか。